（yamagatakanko.com/log/?l=367325　より引用）

# あの日のあの川　リレー日記　～第 42 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

## 第 42 話主人公　大泉達也

（筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：山形県最上川）

## 「地元のシンボル」

いつのこと？：　小学校時代

どこの川？　：　最上川

私が今回取り上げる川は、山形県を流れる最上川である。ざっと最上川に関する概要を述べておく。最上川は昔から農業用水や交通路として利用され、山形県の「母なる川」と呼ばれているそうだ。また熊本県の球磨川、静岡県の富士川と並び、日本三大急流の一つに数えられている川だ。そしてなんといっても、かの有名な俳人松尾芭蕉が「五月雨を集めて早し最上川」を読んだ川としても知られており、全国的にも知名度の高い川である。

**図 1　最上川（撮影：2018 年 5 月　村山市）**

最上川は祖父母の家から車で 5～10 分ほど行ったところにある。川までは車を使わなければならず、大きな川であったため、地元の生活とともにあるような親しみやすい川とはあまり言えなかったが、市民歌にその名が何度も入ってくるほど、市のシンボル的な川であった。そんな最上川と私の記憶は思い出してみると意外と多くあった。

小学校 3 年生の時に地区の友達と最上川を目指して探検に出かけたことがある。先述したように川までは車を使わないと遠い距離で、小学生の足

だと何時間もかかってしまう。だが私たちは興味本位で、未舗装の山道を通って川を目指した。今考えると、小学校中学年の児童数名で山に入っていくのだから、かなり危険な行動だったと思う。結局川にはたどり着けず、山道の途中で引き返してきたのだが、当時の高揚感は今でも忘れられない。服を汚して帰ったことに対して、母親に怒られたのも覚えている。

その同時期に学校の遠足のようなもので、最上川の舟下りに行った。私の地元である村山市の碁点、三ヶ瀬、隼の三地点は昔から通過するのに困難を極めた「最上川三難所」と呼ばれ、県内有数の舟下りスポットとして有名であった。およそ 12 ㎞、50 分のコースをお座敷船に乗って川を下ったのはとても貴重な体験であった。大学生になった今、その景色やスリルを体感するべく、もう一度乗ってみたいとこの日記を執筆していて思っている。

また我が家のお出かけ定番スポットといったら、最上川沿いにあった「クアハウス碁点」だった。私が以前住んでいた地域から最上川を渡った先にある温泉施設で、最上川を眺めることが出来る露天風呂や温泉プールが楽しめる施設であった。学校が長期休みに入ると、母親によく連れて行ってもらい、弟とプール遊びをしたのは良い思い出だ。雄大な最上川の景色を見ながら、温泉やプールが楽しめるというのは、当時あまり意識していなかったが、今考えると最高に贅沢だったと感じる。施設にはテニスコートも併設されており、予約をすれば誰もが利用できるようになっていた。家族とテニスを楽しんだこともよく覚えている。

ここまで長々と、私と最上川の思い出を執筆してきたが、正直初めはこの日記を書くことが不安であった。私自身、山形県に住んでいたのは小学校 5 年生までで、他の人に比べると地元や地元の川に対する思い入れが薄いのかもしれないと勝手に思い込んでいたのだ。しかしこの日記を執筆すると、短い期間の中でも地元や最上川との思い出はたくさんあり、自分も地元の川として最上川の魅力をある程度理解しているのだと再確認することが出来た。今でも自分が生まれ育った町は大好きだし、地元を流れる最上川も大好きである。この日記を書く機会をいただけたことに感謝したい。

**図 2　村山市大淀**
**http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/kankyou-seibi/view/introduction2.html より引用**

（次号は４月号にて片岡さんにバトンを託します）